

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所 管 課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目			総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	1次評価	2次評価		
1	3-Ⅱ-(4)日常生活の安全安心	食中毒対策	食肉の食中毒菌汚染状況調査	H29	R1	1,200	A	A	B	B	B	食肉の食中毒菌による汚染状況の把握及びカンピロバクター属菌の迅速なスクリーニング検査法を構築し、実施に向けて検討を進めており、目的は概ね達成された。	カンピロバクター食中毒は、発生件数が多く、検査の迅速化は有用性が高い。また、分子疫学の手法はカンピロバクターの食中毒の対応でも有用性が高く、流通食肉の汚染状況を確認したことも評価できる。これらの技術の活用が今後の対応に役立つものと期待される。一方、開発された方法は、阻害成分の影響低減で検査の感度を維持しており、検査結果は検体成分にも依存することから検査の質に関して客観的な指標で説明することが課題ではないかと考えられる。
2	3-Ⅱ-(4)日常生活の安全と安心	健康危機管理対策	ヒスタミン分析法の比較検討	H31	R2	462	A	A	A	A	A	化学物質による食中毒で最も多く発生しているヒスタミンによる食中毒の検査を迅速に行う分析法を確立することで、緊急時の対応が可能となり、目的を十分に達成した。	候補となる検査法を比較し、厚労科研の技能試験にも参加し、分析の質の確保を図り標準作業書の作成にまで至っており、ヒスタミンによる食中毒への対応に資する試験研究が行われたものと評価できる。高度な理化学機器の活用の方策を今後も検討されることを期待したい。

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
 所 管 課 産業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	1次評価	2次評価			
1	医療関連産業など、本県の再生の推進力となる産業の集積	チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業	GPSとセンサの組み合わせによる自己位置推定システムの開発	30	2	28,575	A	A	A		A	A	安価な各種センサ融合による位置推定及び深層学習による障害物検出システムを開発し、屋外やGPSが使えない環境下での自律走行を実現した。これによりロボット開発に必須となる要素技術を確立できた。	自己の位置を高精度で推定する技術を実用レベルで確立した、優れた成果と評価する。この要素技術を様々な用途のロボット等に実装していくためには、開発企業との連携や技術的支援が必須である。研究終了後も企業等(特に県内企業)との連携が維持継続できるような体制作りを期待したい。

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目					総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等	1次評価	2次評価			
1	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	多様化したニーズに対応した品種開発・家畜の改良等	県オリジナル優良家畜の改良	平成27年度	令和2年度	33,095	B	A	A	-	A	A	県オリジナル家畜の維持・改良は、生産者団体と改良目標を共有しながら県が大きな役割を担って進めている研究であり、各畜種において着実に育種改良が進められている。供給される県オリジナル家畜により、市場における差別化が図られ、競争力強化につながるものと期待される。	・適切な評価 ・優良家畜の育成が順調に進んでいると考えられるが、目標に照らし合わせた進捗状況を理解できるような記述が必要。	
2	自然・環境と共生する農林水産物の推進	農林水産物における資源の循環利用のための技術確立、環境負荷低減技術や野生鳥獣と共生するための技術確立、地球温暖化に対応するための技術確立	資源循環型農業技術の開発と野生鳥獣被害の軽減技術の確立	平成27年度	令和2年度	103,013	B	A	A	-	A	A	自然・環境と共生する農業の推進のための有用な成果が得られ、成果の活用手法も整えられていることから、農作物の生産性の向上等に資するものと期待される。	・適切な評価 ・進捗状況の記載が概ね“ほぼ計画通り実施した”となっており、具体的な状況の理解が難しい。 ・全体目標等との関連で示されている成果が、目標達成にどのように貢献しているかが分かりにくい。	
3	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立、省力化・高品質化等の生産技術の確立	新たなふくしまの農業を支える革新的農業支援技術の開発と経営的評価及び経営管理システムの構築	平成27年度	令和2年度	15,088	B	B	A	-	B	B	一部課題が中止となったものの、得られた成果の一部は製品化され、すでに現場でも活用されている。研究成果は目的を概ね達成したと考える。	・成果が製品化に貢献した点は評価できる。 ・成果の公表が少ない様に見受けられる。積極的な公表を期待。 ・「水田営農モデルの作成」に関する目標の達成状況がわからない。	
4	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	多様化したニーズに対応した品種開発・家畜の改良等	県オリジナル水稲・野菜・花き品種等の育成・選定	平成27年度	令和2年度	17,041	A	A	B	リンドウ及びカララの新品種の種苗供給については、当初想定していた許諾先の見込みが立たず、新たな供給体制を整備しなければならなかった。	A	A	5品種を品種登録出願するとともに、大豆や麦類の品種特性等の有用な情報も発信することで、現場での品種選定の選択肢を増やし、県産農産物全体のブランド確立に寄与したと考える。	・評価は適切 ・オリジナル品種の開発を精力的に進め、有望な品種を育成したことは高く評価できる。 ・土地利用型作物として、水稲のみでなく畑作物の生産拡大に向けた試験研究の拡充が必要ではないか。	

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等	1次評価	2次評価		
5	東日本大震災及び原子力災害からの復興	新技術の開発と生産現場への移転	「ふくしまの宝」を生かした農業復興加速化のための生産技術の確立	平成28年度	令和2年度	92,885	B	A	A	-	A	A	本研究は、当初計画した「ふくしまの宝」生産振興上の課題を解決する品種開発や技術確立が完了し、特に酒米では産地に加え被災地でも成果の活用等も見られることから、目的を十分に達成した。	・酒米とエゴマに関して優れた成果を創出している。 ・普及成果、参考成果の公表数については評価できるが、課題名である(被災地の)農業復興加速化にどのように貢献出来るかが分からない。取り上げている作物は被災地のニーズに基づき選定されており、今後の利用が見込める。
6	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立、省力化・高品質化等の生産技術の確立	県産果樹の競争力を高める革新的な省力化・高品質生産技術の確立	平成27年度	令和2年度	2,634	B	B	B	-	B	B	生育予測技術の向上、新技術の導入による早期成園化技術の開発等、研究目的は概ね、達成した。	・評価は適切 ・進捗状況の説明が普及成果、参考成果の公表数のみになっており、説明が不十分。
7	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	多様化したニーズに対応した品種開発・家畜の改良等	県オリジナル果樹品種等の育成・選定	平成27年度	令和2年度	45,370	B	A	A	-	A	A	育種目標に沿う特性を備えた品種をモモとリンゴで育成することができた。また、7系統を現地試作中であり、目的は十分に達成した。	・有望な果樹品種が多数育成されており、適切な評価。 ・カキについて新品種の育成は不要との理解であれば、そもそも育成目標とすることが必要であったのか。
8	農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進	県産農林水産物の高付加価値化及び商品化のための加工技術確立、地域資源の特徴を生かせる栽培・加工技術の確立	県産農産物の加工・品質保持技術の開発	平成27年度	令和2年度	8,876	B	B	B	-	B	B	6次化産業の推進に向けた加工技術の開発に加え、県産農産物の機能性成分の見える化や輸出拡大に向けた鮮度保持技術などの成果が得られ、目的を達成した。	・適切な評価 ・成果の内容については資料で理解できるが、成果がどのように活用されるか(されているか)の記述があれば評価の妥当性を判断する材料となる。 ・成果の公表について: 成果発表会での公表実施との成果が多々あるが、論文にとりまとめ公表することで科学的根拠を示すことができる。

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等	1次評価	2次評価		
1	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	マツノサイセンチュウ抵抗性種苗の品種向上及び生産量増加技術の開発	平成28年度	令和2年度	2,784	A	B	A	-	A	A	研究成果は、当初の目的を十分に達成したと判断される。	・抵抗性品種の自然交配種と比較して抵抗性は遜色なく、種子生産を増加する技術を開発できたと理解いたしました。また、品質は抵抗性を意味していると思います。これらの点について、十分な成果が得られたと思います。 ・品質に関しては、育苗の際の生存率や成長速度と考えることもできるので、丁寧な説明が必要だと思いました。
2	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進	県産きのこ等の優良品種選抜と機能性の解明	平成27年度	令和2年度	5,534	A	A	A	-	A	A	ホンシメジのチップ培地を開発し、現地での生産が開始されている等、すでに普及の成果が挙げられているため、研究成果は目的を十分に達成したと認める。	福島県が優位性を持つナメコとホンシメジの栽培について、栄養成分の分析、栽培法について進捗があり、産地としての発展に繋がることが期待できます。

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 水産海洋研究センター
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初予算(計画)額(千円)	当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等	1次評価		
1	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立	沿岸性浮魚の漁場形成予測技術の開発	平成28年度	令和2年度	801	A	A	A	-	A	A	漁況予測に必要なデータを蓄積するとともに、新たな予測手法が有効であることを明らかにするなど、漁況予測に繋がる成果が得られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価は妥当である。 ・漁業者に役立つ情報提供が可能になったと思います。 ブラッシュアップを期待します。

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 水産資源研究所
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等	1次評価	2次評価		
1	自然・環境と共生する農林水産業の推進	農林水産業における資源の循環利用のための技術確立	沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明(幼稚魚新規加入状況調査)	平成28年度	令和2年度	273	A	A	A	-	A	A	稚魚分布量と漁獲量、環境要因である水温と加入密度の関係について成果を得ており、漁業者に対し、持続的な資源利用について提示が可能なことから、目的を十分に達成した。	・事後評価内容は妥当である。 ・貴重なデータであり、是非継続してください。なお、継続に際しては、調査内容を一定期間ごとに見直すことも必要だと思います。(一般論として) ・付属資料。稚魚分布量と漁獲量に相関が認められたと書いてありますが、図3, 4からそのことがよくわかりませんでした。表現の修正、わかりやすい図示など、検討してください。
2	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立	松川浦の増養殖の安定化に関する研究	平成28年度	令和2年度	810	A	A	A	-	A	A	拡大操業への移行と生産拡大のために活用できる成果が得られ、漁業復興支援に貢献し、目的を十分に達成した。	・事後評価は妥当である。 ・非常に貴重なデータを取得されたと思います。過去の情報と比較しつつ、漁業振興、広報、研究に役立つことを期待しています。 ・図1で、0-100%を色分けしていますが、この数値は何でしょうか？
3	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立	栽培漁業対象種の放流技術に関する研究(栽培漁業の再建に資する省力・低コスト生産技術の開発)	平成28年度	令和2年度	5,040	A	B	A	-	A	A	種苗生産現場においてただちに活用可能な、コスト削減と安定生産につながる知見が得られており、目的を十分に達成した。	・事後評価は妥当である。 ・種苗生産の効率化に役立つ情報が得られた。可能な技術から順次現場に実装することを期待する。

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 内水面水産試験場
 所 管 課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	試験研究始期・終期		予算額 当初予算(計画)額(千円)	具体的評価項目				総合評価		部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類		始期	終期		当初研究計画との相違	研究目的の達成度	研究成果の活用	研究実施時の問題点等	1次評価	2次評価		
1	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立	生物餌料を活用した効率的なコイ生産技術の開発	平成27年度	令和2年度	1,719	B	A	B	-	B	B	初期飼育に関する有用な知見が得られたことは、淡水魚の安定生産につながるため、有用な成果として評価できる。	事後評価のうち、2.「当初の研究計画との相違」「計画の遅延・変更」を重視して「B」としているが、実施事項の進行が早くなったため1年前倒しで調査項目の一部を完了させたということが理由であり、期間全体の目標を達成する成果が得られていると評価できるのであれば、「A」でもよいと思います。 また、ここが「A」となると、3総合評価も「A」となる可能性があります。事後評価「当初の研究計画との相違を「B」とした理由を精査する必要があると思います。
2	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	優良種苗・種畜を安定的に供給するための技術確立	高品質魚作出量産技術の開発	平成28年度	令和2年度	311	C	B	B	性転換雄は魚体も十分大きく、成熟年齢にも達していたが採精できなかった。	B	B	十分量の3倍体魚作出には至らなかったが、高品質魚の作出につながる技術を概ね確立できた。	・事後評価は妥当である。 ・まずは、性転換雄をから精子が得られなかった原因を究明する必要があると思います。解決した場合、再チャレンジが可能かどうか、検討してはいかがでしょうか。
3	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	農林水産物の安定供給技術の確立	内水面重要水産資源の増殖手法の開発	平成28年度	令和2年度	576	B	A	A	-	A	A	内水面漁業協同組合にとって重要な増殖事業に寄与する成果が得られており、目的を概ね達成したといえる。	・事後評価は妥当である。 ・状況の変化にも臨機応変に対応して、重要資源の増殖方法に関して貴重なデータを取得したものと評価できる。